

=== T A C S 情報 第1号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和8年5月26日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月上旬の平均気温は、16.6℃（対平年差+0.3℃）と平年並であった。

5月中旬の平均気温は、20.0℃（同+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。

5月5半旬の平均気温は、20.5℃（同+1.9℃）と平年に比べかなり高かった。

(2) 降水量

5月上旬の降水量は、52.5mm（対平年比120%）と平年に比べ多かった。

5月中旬の降水量は、1.0mm（同2%）と平年に比べかなり少なかった。

5月5半旬の降水量は、32.0mm（同187%）と平年に比べ多かった。

(3) 日射量

5月上旬の平均全天日射量は、19.0MJ/m²/日（対平年比107%）と平年に比べ多かった。

5月中旬の平均全天日射量は、26.5MJ/m²/日（同146%）と平年に比べかなり多かった。

5月5半旬の平均全天日射量は、15.9MJ/m²/日（同83%）と平年に比べ少なかった。

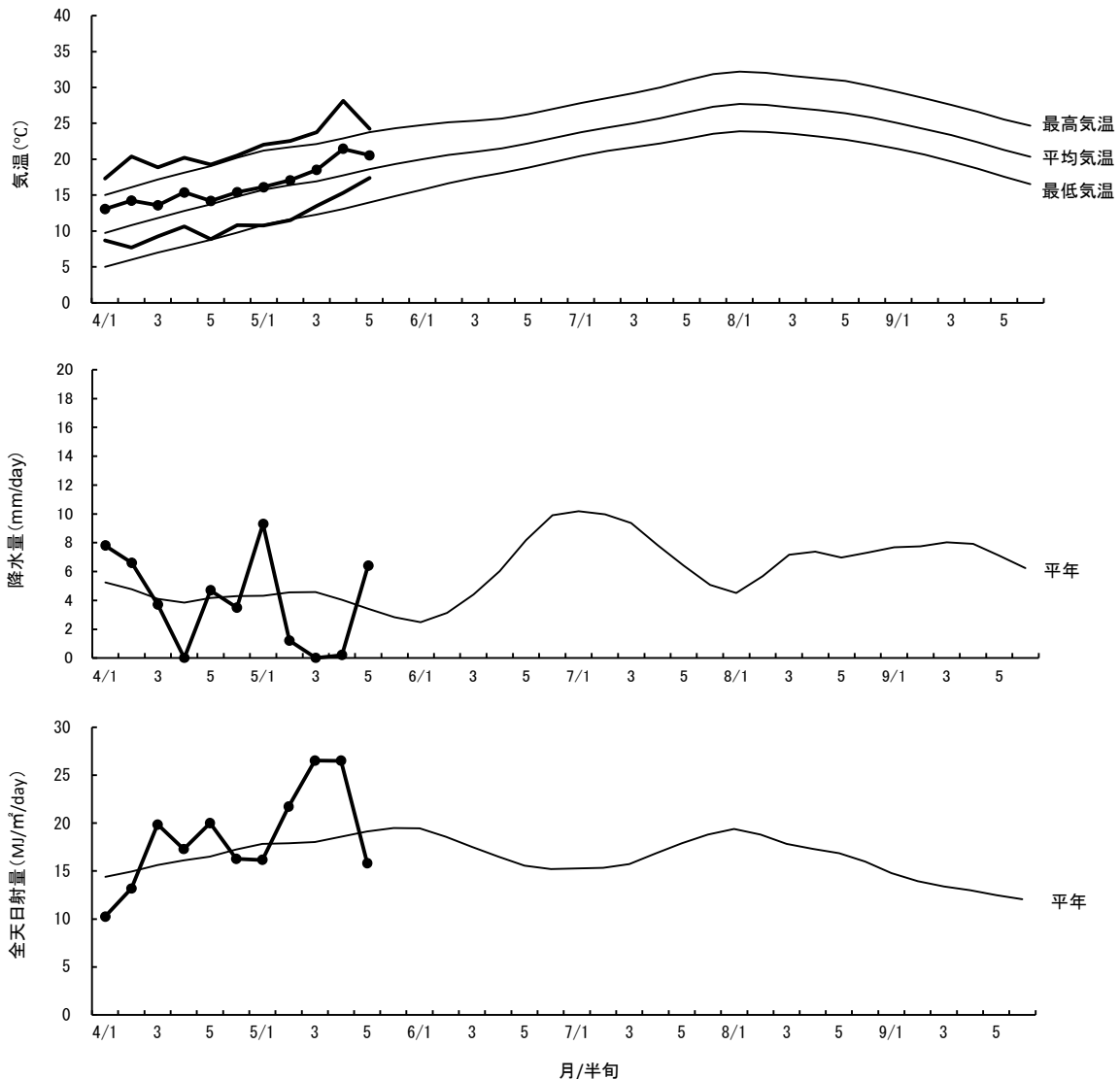


図1 令和8年の気象経過（富山地方气象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

（1）苗の状況（表1）

①てんたかく

平年に比べ、草丈は短く、葉齢は0.2葉進んでおり、第1葉鞘長はやや短く、充実度はやや高かった。

②コシヒカリ

平年に比べ、草丈、葉齢は並、第1葉鞘長はやや長く、充実度はやや高かった。草丈が適正な地点が多いものの、16cmを超える地点もみられた（図2）。

③富富富

近年に比べ、草丈は長く、葉齢は並、第1葉鞘長はやや長く、充実度は高かった。草丈が適正な地点が少なく、長い地点が多かった（図3）。

④てんこもり

平年に比べ、草丈、第1葉鞘長はやや短く、葉齢は並、充実度は高かった。

表1 苗の生育状況（生育観測ほ）

品種	年次	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	第1葉鞘長 (cm)	生体重 (mg)	乾物重 (mg)	乾物率 (%)	充実度 (mg/cm)
てんたかく	R8	11.8	2.9	3.0	97.2	16.3	16.9	1.40
	R7	13.2	2.7	3.2	98.5	20.2	20.1	1.52
	平年	13.3	2.7	3.2	90.7	17.3	18.9	1.30
	前年比・差	89	0.2	93	99	81	84	92
	平年比・差	89	0.2	94	107	94	89	108
コシヒカリ	R8	14.6	2.5	4.1	90.4	18.5	20.5	1.28
	R7	13.2	2.5	3.8	83.2	16.3	19.7	1.24
	平年	14.3	2.6	3.9	87.4	17.3	19.9	1.22
	前年比・差	110	0.0	106	109	114	104	103
	平年比・差	102	-0.1	105	103	107	103	105
富富富	R8	13.8	2.6	3.8	91.9	18.6	20.3	1.38
	R7	12.0	2.5	3.5	78.7	14.5	18.7	1.23
	近年	12.3	2.5	3.6	80.4	15.3	19.1	1.25
	前年比・差	115	0.1	108	117	128	109	112
	近年比・差	111	0.1	105	114	121	106	111
てんこもり	R8	10.9	2.8	3.0	82.9	18.5	22.4	1.69
	R7	10.7	3.1	3.1	89.3	18.2	20.3	1.69
	平年	12.0	2.8	3.3	86.4	17.3	20.1	1.46
	前年比・差	102	-0.3	98	93	101	110	100
	平年比・差	92	0.0	92	96	106	111	116

注1) 平年はH28～R7年の平均、近年はH30～R7年の平均、充実度：乾物重÷草丈

注2) 富富富は黒部、福光を除く8か所の平均値

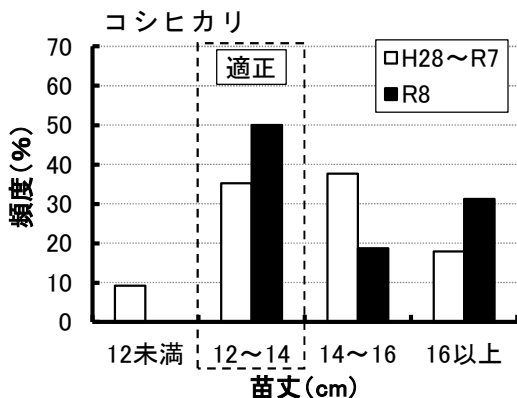


図2 「コシヒカリ」の苗丈の分布
(生育観測ほ)

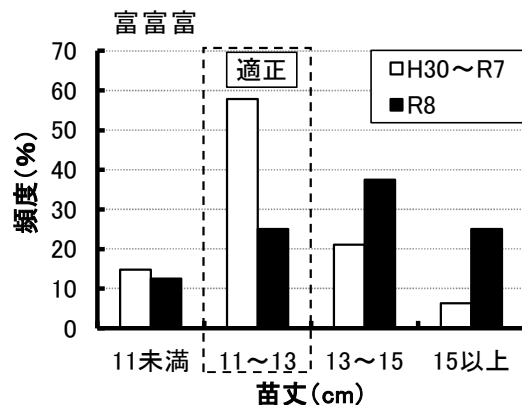


図3 「富富富」の苗丈の分布
(生育観測ほ等)

(2) 本田での生育状況 (表2)

① てんたかく

平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉齢は1.2葉進んでおり、葉色はやや濃くなっている。

② コシヒカリ

平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く (図4)、葉齢は0.6葉進んでおり、葉色はやや濃くなっている。

③ 富富富

近年に比べ、草丈、葉齢、葉色は並、茎数はやや多くなっている (図5)。

④ てんこもり

平年に比べ、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉齢は0.4葉進んでおり、葉色は並となっている。

表2 水稻の生育状況 (5月26日 生育観測ほ)

品種	年次	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色 葉色板
						(本/株)	(本/m ²)		
てんたかく	R8	4月29日	4.2	20.6	27.7	13.6	284	7.3	4.4
	R7	4月30日	3.4	21.4	25.1	8.5	173	6.4	4.0
	平年	5月1日	3.7	21.5	24.2	6.2	127	6.1	4.2
	前年比・差	-1	0.8	-0.8	111	160	164	0.9	0.4
	平年比・差	-2	0.5	-0.9	115	220	224	1.2	0.2
コシヒカリ	R8	5月13日	4.0	21.6	24.9	5.6	120	4.9	4.0
	R7	5月13日	4.0	21.5	22.7	4.1	89	4.5	3.6
	平年	5月14日	3.9	21.8	22.3	4.1	89	4.3	3.8
	前年比・差	0	0.0	0.1	110	136	135	0.4	0.4
	平年比・差	-1	0.1	-0.2	112	137	134	0.6	0.2
富富富	R8	5月17日	4.1	22.4	19.6	4.4	100	4.2	3.9
	R7	5月17日	4.0	22.1	16.2	3.8	83	3.9	3.7
	近年	5月15日	3.9	21.7	19.2	4.4	95	4.1	3.9
	前年比・差	0	0.1	0.3	121	117	120	0.3	0.2
	近年比・差	2	0.2	0.7	103	101	105	0.1	0.0
てんこもり	R8	5月9日	3.7	19.8	23.2	7.8	158	5.8	4.2
	R7	5月12日	4.2	19.6	17.8	4.9	96	5.0	4.0
	平年	5月9日	3.9	19.3	21.4	5.6	102	5.4	4.2
	前年比・差	-3	-0.5	0.2	130	160	164	0.8	0.2
	平年比・差	0	-0.2	0.5	108	140	155	0.4	0.0

注) 平年はH28~R7の平均、近年はH29~R7の平均

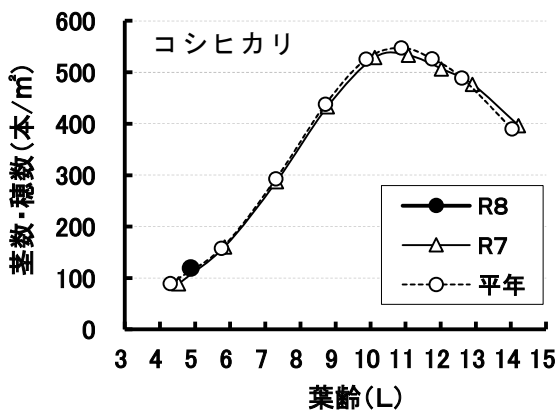


図4 「コシヒカリ」の茎数の推移 (生育観測ほ)

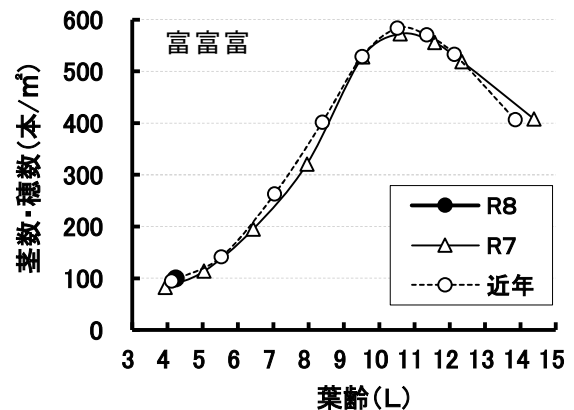


図5 「富富富」の茎数の推移 (生育観測ほ等)

3 当面の技術対策

- ・「てんたかく」及び「てんこもり」は、葉齢が進み、茎数がかなり多くなっていることから、田植後1か月までに遅れずに溝掘り・中干しを行う。
- ・「コシヒカリ」及び「富富富」は、分けつの発生を促進するため、浅水管理を徹底する。また、ワキや藻類の発生がみられる場合は、水の入れ換えや軽い田干しを行う。
- ・今後、茎数の急激な増加が見込まれることから、田植後3週間を目安に溝掘りを行い、田植後4週間までに中干しを開始する。

(1) 「てんたかく」、「てんこもり」の管理

田植後1か月までに中干しを遅れずに開始する。また、中干し開始前に5m(15~17条)に1本を目安に溝掘りを確実に行い、ほ場への入排水の効率を高める。

(2) 「コシヒカリ」、「富富富」の管理

①中干しまでの水管理

- ・中干し開始まで2~3cm程度の浅水管理により分けつの発生を促進する(図6)。
- ・昼夜の水温較差が大きい(日中を高く、夜間を低くする)と分けつの発生が促進されるため、朝または夕方に入水し、昼間の入水は避ける(図7)。

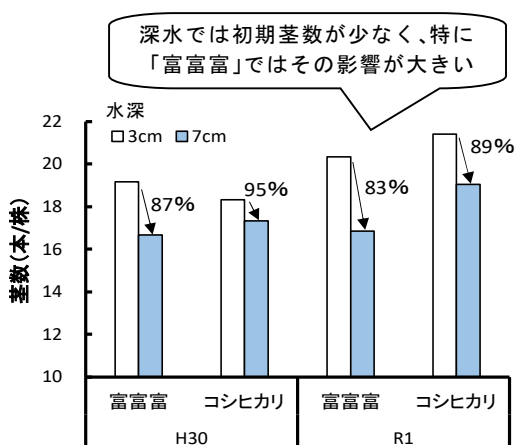


図6 水深が「富富富」及び「コシヒカリ」の茎数に及ぼす影響 (H30、R元 農研)

注) 移植後30日頃の調査

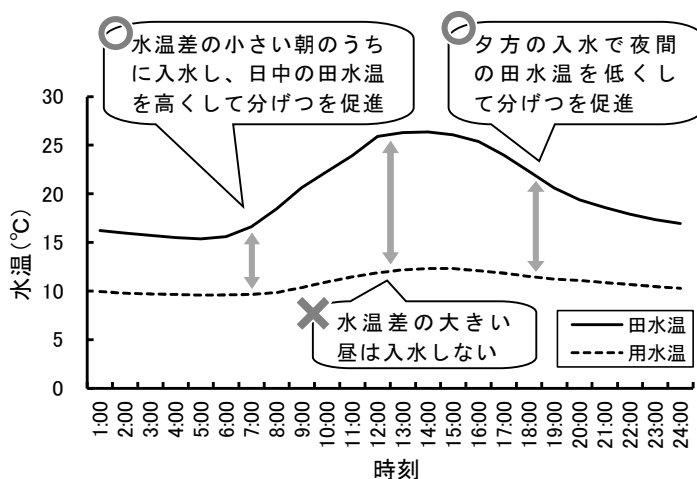


図7 5月の田水温及び用水温の推移 (R7農研ほ場)

注) 令和7年5月1日~31日の平均値

②適期の溝掘り・中干しの実施

- ・高温・多照で推移し、平年に比べ茎数が多くなっていることから、砂壤土を中心に過剰分けつによる葉色低下が懸念される。このことから、適期に中干しができるよう、田植後3週間を目安に溝掘りを実施する(図8)。
- ・中干しは、茎数320本/m²(15本/株)程度を確保した時点で、遅くとも田植後4週間までに確実に開始する(図8)。

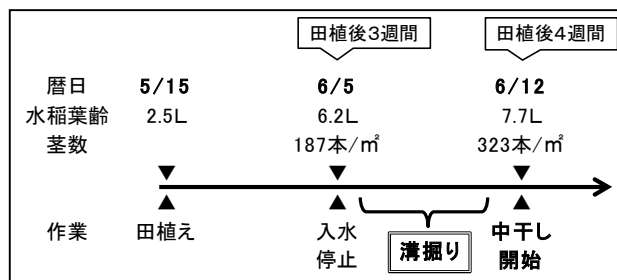


図8 溝掘り・中干し開始時期のイメージ

注) 水稲葉齢はH29~R7富富富の平均値

(3) 共通管理

① ワキ及び藻類の対策

- ・メタンや硫化水素等のガス（ワキ）や藻類の発生がみられる場合は、速やかに水の入れ換えや軽い田干しを随時行う。特に、秋耕を実施していないほ場ではワキの発生に注意する（図9）。
- ・藻類の発生が著しい場合は、モゲトン粒剤 1～3 kg/10a を散布して防除する。

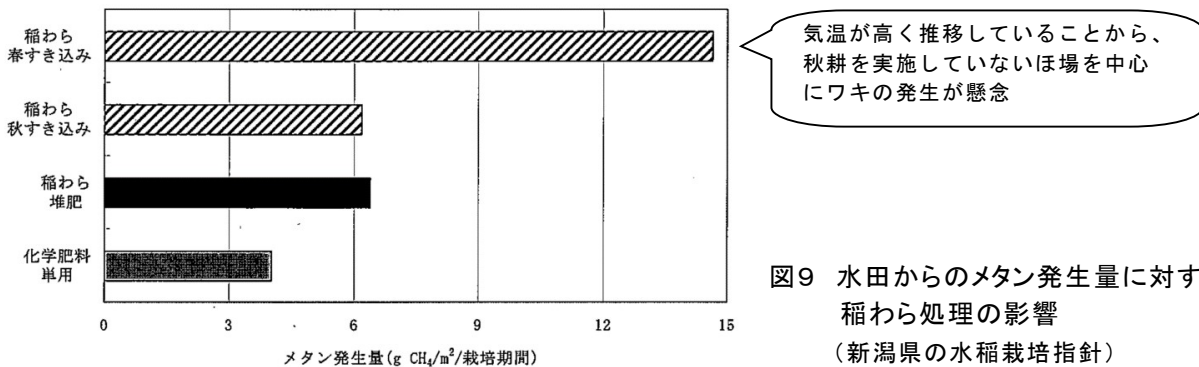


図9 水田からのメタン発生量に対する稲わら処理の影響
(新潟県の水稲栽培指針)

② 雑草防除

- ・雑草の発生がみられる場合は、草種と生育期に応じて、適切な中・後期剤を散布する。
- ・湛水散布の場合は、散布後7日間は止水管理（「落水」や「かけ流し」をしない）とし、水田外への流亡を防ぐ。

③ 斑点米カメムシ類対策

- ・現在、畦畔・雑草地における斑点米カメムシ類の確認地点率は80.0%（平年58.5%）と平年に比べ高く、捕獲頭数も14.4頭（平年5.28頭）と平成10年以降2番目に多くなっている（令和8年5月22日 病害虫防除技術情報第1号）。
- ・畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りを実施するとともに、本田内にカメムシが好むノビエやホタルイ等の雑草が残らないよう除草を徹底する。

④ イネミズゾウムシ対策

- ・近年、イネミズゾウムシの発生が増加しているため（図10）、本田で要防除水準（0.3頭/株）以上の発生が確認された場合は、随時防除を行う。
- ・幼虫の密度を抑えるため、適期に中干しを確実にを行う。

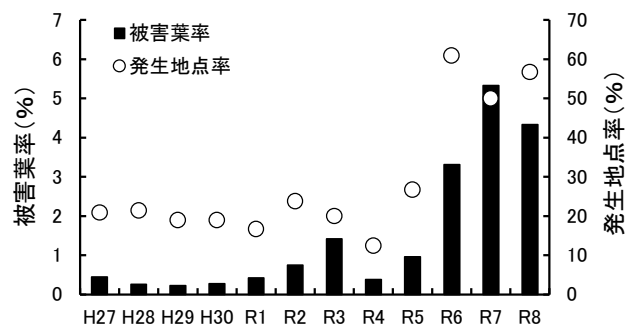


図10 イネミズゾウムシの被害率と確認地点率の推移（農研）

注）5月20日調査